

平成28年度 綾瀬市立城山中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
自立する生徒 ～ イメージ豊かに創造しよう ～ ・意欲を持って学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人	○ 学校運営組織を活性化させ、指導体制の強化・充実を図る。 ○ 校内研究や校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。 ○ 積極的な情報提供や収集を充実させ、家庭や地域との連携を図る。 ○ 施設・設備を充実させ、教育環境の整備を図る。	
今年度の重点目標		
◎ 豊かな人間関係を築かせる。 ◎ 主体的な学習態度を身につけさせる。 ◎ 望ましい生活習慣を身につけさせる。		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	グラフを見ると、約9割の生徒や教職員が「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価しており、授業を大切にしている姿勢がうかがえます。しかし、保護者の評価は8割弱となっており、若干隔たりが感じられます。次年度は、保護者との連携をしながら家庭学習の啓発を多くの場面でい、更なる学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	アンケート結果から、昨年同様に生徒・保護者の多くが「積極的に参加している」という評価が得られました。生徒が自らの手で充実した学校行事を作り上げるよき伝統は、本校の誇りといっても過言ではありません。次年度も、すべての生徒に充実感や達成感を与えられるよう、より効果的かつ効率的な学校行事の企画・運営を目指していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	アンケートでは9割を超える生徒が友人に対して思いやりの気持ちを持って接していると答えています。また保護者も同様の認識を持っています。このことから城山中学校の生徒が持つ心のやさしさがうかがえます。次年度は、学校行事・道徳教育・学級活動などの指導を多角的に展開し、更なる人間関係の育成に努めていきたいと思ひます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	アンケートでは、9割近くの生徒が「学校生活を楽しく過ごしている」と答えています。しかし、「学校生活を楽しく過ごせていない」生徒が1割ほどいることをしっかりと受け止めなければいけません。今後も生活アンケートや生活相談、そして日常の生徒との関わりも大切にし生徒一人ひとりの心に寄り添った生徒理解・支援を行っていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	アンケート結果から保護者と教職員では取組に対する評価に差があり、保護者の3割近くが、学校の取組が十分ではないと考えているようです。この結果を真摯に受け止め、保護者との連携・いじめ予防・発生の適切かつ誠実な対応を今一度、全職員で共通理解する必要があります。本校の指導の重点である「豊かな人間関係を築かせる」ことができるよう、より充実した教育活動の実践に努めていきたいと思ひます。

6 保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	昨年同様、2割の生徒は、自分自身の健康や体力にあまり関心を持っていないことがわかります。本校に限らず、深夜までのゲームや情報機器の利用など、心身の健康を妨げる様々な要因が現代社会にはあふれています。規則正しい生活習慣の重要性を継続的に指導し、心と身体の健康に対する意識を育成したいと思います。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	避難訓練については、今後も昨年と同様に実施していきませんが、生徒の安全だけでなく、安全に対する意識がより高められる防災教育も実施していきたいと考えています。施設の点検・整備においては、生徒が安全な学校生活を送れることを職員が念頭に置き、問題点などの早期対応に努めていくことを心がけたいと思います。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	今年度は、職員アンケートや生徒のニーズを踏まえた支援教育の実施に取り組みました。今後も支援教育に対する教員の資質を高め、生徒一人ひとりの相談活動などにより、個々の生徒に応じた支援教育を充実させていきます。また、よりよい支援体制を構築し、関係諸機関との連携をさらに深めて効果的な支援教育を目指していきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	8割以上の職員が「職務が円滑に遂行できた」と考えています。このことは、校長・教頭のリーダーシップがしっかりと各グループに伝わっていることの表れだと思われます。また本校は若手の職員が多いことから、職員間の連絡を密にし、次世代のリーダーを育成することも大切にしています。本年度の各グループから出た反省を活かし、次年度もよりよい学校運営を目指していきたいと考えています。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度は互いに授業を参観しやすくするため、年間3回の授業公開としました。授業公開前には、推進委員を中心に班で指導案の検討を行い、その指導が適切であったかを反省会で見直しをしました。昨年度に比べ、積極的に取り組んでいる職員がやや増加したことに効果の表れと意識の向上が感じられます。今後は校内研究に、アクティブラーニングの視点も取り入れていきたいと考えています。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	昨年同様、教職員の8割以上が学校教育目標を意識して教育活動を行っていると考えていますが、保護者の3割近くは「指導の工夫をしている」とはあまり思っていないと答えています。「自立する生徒」の育成に向け、まず生徒それぞれの個性を把握し、その個性を伸ばさせるよう努めていきたいと思っています。また生徒一人ひとりの特色が発揮できる教育活動の企画も重要であると考えています。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の7割が学校の情報が分かりやすく伝えられていると評価していますが、職員が思っているほどには情報が伝わっていない実態が上のグラフから読み取れます。各学級で「たより」をしっかりと持ち帰ってもらう指導を今後も行い、生徒の様子がしっかりと伝わるように「たより」の内容もさらに充実させていきたいと思っています。また家庭訪問や三者面談など生徒の様子を直接伝えられる機会を今後も有効に活用していきます。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- 全体的に生徒の評価が肯定的になっていることから、学校の取り組みの成果がうかがえる。
- 生徒の学習に対する姿勢やその状況を把握するためにアンケート調査を実施し、家庭学習の充実に向けた本格的な取り組みを考えてみてはどうか。
- アンケート結果から、全体的に保護者と教員の間意識のズレがある。学校の取り組みを学校側から情報発信するだけでなく、学校と保護者との意見交換の場などを設定する必要があるのではないか。
- 部活動は、健全な生徒の成長を図るうえで欠かせないとする。顧問の先生方だけでなく外部指導者等を活用し、より一層の部活動の充実を図っていただきたい。